



# 産経新聞

好事魔多しとも言われる。最も偶然とは思えない。イランの最高指導者ハメネイ師は、安倍首相に核兵器開発をしないと明言する一方、米国との対話を拒否すると語った。また師は、対話を進めている折も折、日本を友好国と認めながら、遺

## 歴史の交差点

武蔵野大特任教授 山内昌之



の海運会社によって運航されるタンカーが正体不明の勢力から攻撃を受けて、日本の力の限界を感じたかもしれない。イランが海域支配権を及ぼすホルムズ海峡で起きた事件はと

憾な点もあると指摘している。タンカー事件とハメネイ師の発言に因果関係があるか否か、にわかに断定しがたいが、日本にとって大きな教訓を得たことだけは間違いない。それは、イ

ランが親日国であるとか、安倍首相が個人的にイランに思い入れがあるという主観的な親イラン感情の評価とは別に、イランの指導者らは日本が米国最大の同盟国であることを正確に重視した事実である。

## 安倍首相のイラン訪問

ハメネイ師からもう少し色よい反応を期待したければ、日本政府はハメネイ師が国内の革命防衛隊や超保守派宗教エリートに説得できる「おみやげ」を持っていく必要があった。例えば、今年に入って日本など8カ国・

地域に認めていたイラン原油の輸入を例外なく禁止した米国の決定に関する。安倍首相はイラン原油の例外的輸入をトランプ米大統領に認めさせ、それをテコにテヘランを訪問していたなら、事態はもう少し違った様

安倍首相が相手にした各国首脳では、トルコのエルドアン大統領より情勢を読む力にたけており、ロシアのプーチン大統領と同じかそれ以上に陰謀と挑発の才に秀でている人物なのだ。ハメネイ師は日本を介して無条件で米国のベースに乗せられるよりも、これまでのように耐久力や持久力を発揮するお家芸を選んだのだろう。イスラエルのゴラン高原併合を認め、大使館をエルサレムに移したトランプ氏と無条件で対話するのは、イスラム政治体制の生命を自ら絶つに等しいからだ。しかし、日本に外交的な成果がなかったわけではない。それ

はロウハニ大統領だけでなく最高指導者のハメネイ師と会えたことで、西側の指導者としてはシリア戦争の同盟国ロシアのプーチン氏に準じる扱いを受けたことだ。長期政権としての安倍首相の存在感を認知させたともいえよう。これは今後のイラン外交で大きな財産となる。トランプ氏との関係を好転させられなかったにせよ、JCPOA(包括的共同行動計画)原メンバーから外されていた日本は、逆にEU(欧州連合)の混乱を尻目にイラン関係で中長期的に独自交渉の足場を得た戦略的成果は認めてよいだろう。(ちまうち まさゆき)